

四半期報告書

(第94期第3四半期)

自 平成30年10月1日

至 平成30年12月31日

三井金属鉱業株式会社

(E00024)

目 次

頁

【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	5
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(5) 【大株主の状況】	6
(6) 【議決権の状況】	7
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
(1) 【四半期連結貸借対照表】	9
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	11
【四半期連結損益計算書】	11
【四半期連結包括利益計算書】	12
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月13日

【四半期会計期間】 第94期第3四半期(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)

【会社名】 三井金属鉱業株式会社

【英訳名】 Mitsui Mining and Smelting Company, Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西田 計治

【本店の所在の場所】 東京都品川区大崎一丁目11番1号

【電話番号】 03-5437-8031

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 黒田 啓市

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大崎一丁目11番1号

【電話番号】 03-5437-8031

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 黒田 啓市

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第3四半期 連結累計期間	第94期 第3四半期 連結累計期間	第93期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	373,619	372,793	519,215
経常利益 (百万円)	33,075	12,648	11,239
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 当期純損失(△) (百万円)	21,798	4,426	△708
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	17,616	6,199	△1,065
純資産額 (百万円)	197,335	180,809	178,652
総資産額 (百万円)	548,084	526,621	518,705
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり当期純損失金額(△) (円)	381.70	77.52	△12.40
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	34.2	32.6	32.4

回次	第93期 第3四半期 連結会計期間	第94期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△) (円)	195.93	△2.13

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成29年10月1日付で、当社普通株式について10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額を算定しております。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、堅調な企業収益を背景に、雇用・所得環境は改善が持続し、個人消費は持ち直しの動きが見られる等、緩やかな回復基調で推移しました。一方、世界経済は、米国の保護主義的な通商政策による貿易摩擦の長期化、中国経済の減速が鮮明となる等、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

こうした経済環境の中、当社グループは10年後のありたい姿である「機能材料、金属、自動車部品の3事業を核に、成長商品・事業を継続的に創出し、価値を拡大し続けている会社」を実現するため、「16中計」の3年目となる平成30年（2018年）度は、中計の仕上げの年として、また、次期中計の準備期間として、各事業セグメントにおいて「13中計の収穫」「既存事業の基盤強化」「将来への布石作り」の重点施策に取り組んでおります。

機能材料事業においては、銅箔事業、触媒事業の強化を引き続き実行しております。具体的には、銅箔事業は、キャリア付極薄銅箔の生産体制の増強および新ラインの確実な立ち上げ、触媒事業は二輪車向けのシェア維持および四輪車向け生産体制の確立と収益貢献に注力しております。

金属事業においては、引き続きリサイクル原料の処理量の増加に重点を置いた取り組みを実行しております。カセロネス銅鉱山については、安定操業および効率生産可能な体制構築に向けた支援に努めております。また、2019年度からの利益貢献を予定している水力発電事業への投資を実行しております。

ドアロックを主力とする自動車部品事業では、国内拠点の収益改善および海外拠点の戦力化のためのコスト低減を継続しております。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、前年同期比8億円（0.2%）減少の3,727億円となりました。

営業利益は、第2四半期以降の亜鉛・鉛価格が低調に推移したこと等に伴う、棚卸資産の在庫影響（以下、「在庫要因」）が悪化したことや機能材料部門において主要製品の販売量が減少したこと等により、前年同期比232億円（65.0%）減少の125億円となりました。

経常利益は、営業利益の減少に加え、持分法による投資損失が18億円好転したこと等により、前年同期比204億円（61.8%）減少の126億円となりました。

また、特別損益においては、固定資産除却損13億円等を特別損失に計上しました。加えて、税金費用および非支配株主に帰属する四半期純利益を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比173億円（79.7%）減少の44億円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①機能材料セグメント

排ガス浄化触媒は、二輪向けおよび四輪向けの需要が堅調であったことから販売量は増加しました。キャリア付極薄銅箔は、高密度実装配線基板向けの需要が低調であったことから販売量は減少しました。

当部門の売上高は、前年同期比37億円（3.0%）増加の1,280億円となりました。経常利益は、キャリア付極薄銅箔等の販売量が減少したことに加え、原料代・エネルギーコストの上昇や研究開発費の増加、第3四半期に入りインジウム価格の下落に伴う在庫要因が悪化したこと等により、前年同期比92億円（39.2%）減少の143億円となりました。

②金属セグメント

第2四半期以降の亜鉛・鉛価格が低調に推移したこと等から、当部門の売上高は前年同期比68億円（5.3%）減少の1,223億円となりました。経常損益は、在庫要因が悪化したこと等から、前年同期比81億円減少し61億円の損失となりました。

③自動車部品セグメント

自動車用ドアロックの国内市場は低調であったものの、中国市場は堅調に推移したこと等から、当部門の売上高は前年同期比27億円（3.6%）増加の771億円となりました。経常利益は、鋼材価格の上昇による影響等により、前年同期比7億円（19.4%）減少の31億円となりました。

④関連セグメント

ダイカスト製品等の販売量は増加したものの、各種産業プラントエンジニアリング事業において、国内グループ企業の大規模定期修繕工事による完成工事高が減少したこと等から、当セグメントの売上高は前年同期比6億円（0.6%）減少の951億円となりました。経常利益は、在庫要因が悪化したこと等から、前年同期比16億円（30.2%）減少の37億円となりました。

主要な品目等の生産実績及び受注状況の当期の推移は、次のとおりであります。

セグメント	品目	単位		第1	第2	第3	第4	累計
				四半期	四半期	四半期	四半期	
機能材料	銅箔	生産量	千t	7	7	6	—	21
	亜鉛	生産量	千t	53	49	49	—	152
金属	鉛	生産量	千t	15	16	16	—	49
自動車部品	自動車部品	生産金額	億円	220	222	229	—	673

* 亜鉛：共同製錬については当社シェア分

(2) 財政状態の状況

資産合計は、受取手形及び売掛金が139億円減少したものの、たな卸資産76億円、短期貸付金66億円、有形固定資産34億円の増加があったこと等により、前連結会計年度末に比べ79億円増加の5,266億円となりました。

負債合計は、デリバティブ債務64億円、賞与引当金21億円の減少があったものの、長・短借入金、社債及びコーポレート・ペーパー残高が153億円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ57億円増加の3,458億円となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益44億円、連結子会社の決算期変更に伴う利益剰余金13億円、繰延ヘッジ損益44億円の増加に加え、配当による減少39億円、為替換算調整勘定18億円、非支配株主持分11億円の減少等があり、前連結会計年度末に比べ21億円増加の1,808億円となりました。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント上昇の32.6%となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態に関する説明については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、7,054百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	190,000,000
計	190,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,296,616	57,296,616	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	57,296,616	57,296,616	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日	—	57,296	—	42,129	—	22,557

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 189,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 56,997,400	569,974	—
単元未満株式	普通株式 109,716	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,296,616	—	—
総株主の議決権	—	569,974	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井金属鉱業株式会社	東京都品川区大崎 一丁目11番1号	189,500	—	189,500	0.33
計	—	189,500	—	189,500	0.33

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,379	21,299
受取手形及び売掛金	※4 100,540	※4 86,573
商品及び製品	36,175	35,213
仕掛品	31,155	32,828
原材料及び貯蔵品	46,314	53,220
その他	13,124	25,803
貸倒引当金	△154	△148
流動資産合計	249,536	254,790
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	175,761	182,715
減価償却累計額	△119,188	△121,306
建物及び構築物（純額）	56,572	61,409
機械装置及び運搬具	368,082	380,435
減価償却累計額	△301,484	△310,726
機械装置及び運搬具（純額）	66,597	69,709
鉱業用地	370	369
減価償却累計額	△240	△245
鉱業用地（純額）	130	123
土地	33,322	33,275
建設仮勘定	16,436	11,653
その他	60,455	61,514
減価償却累計額	△50,145	△50,862
その他（純額）	10,309	10,651
有形固定資産合計	183,369	186,822
無形固定資産	4,172	4,000
投資その他の資産		
投資有価証券	65,000	63,439
長期貸付金	482	468
退職給付に係る資産	4,624	5,066
繰延税金資産	7,268	7,714
その他	4,406	4,404
貸倒引当金	△155	△85
投資その他の資産合計	81,627	81,008
固定資産合計	269,169	271,831
資産合計	518,705	526,621

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 42,913	※4 41,314
短期借入金	60,549	74,560
コマーシャル・ペーパー	7,500	29,000
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	4,050	3,224
その他の引当金	7,314	4,984
その他	40,125	34,576
流動負債合計	172,454	197,661
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	80,369	60,165
繰延税金負債	2,906	1,469
その他の引当金	2,728	2,399
退職給付に係る負債	26,542	26,635
資産除去債務	3,065	2,936
その他	1,987	4,544
固定負債合計	167,598	148,150
負債合計	340,053	345,811
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,129	42,129
資本剰余金	22,648	22,631
利益剰余金	93,113	94,804
自己株式	△619	△621
株主資本合計	157,271	158,944
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,606	1,502
繰延ヘッジ損益	△4,696	△255
為替換算調整勘定	13,532	11,686
退職給付に係る調整累計額	△519	△390
その他の包括利益累計額合計	10,922	12,542
非支配株主持分	10,459	9,323
純資産合計	178,652	180,809
負債純資産合計	518,705	526,621

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	373,619	372,793
売上原価	299,808	319,281
売上総利益	73,810	53,512
販売費及び一般管理費	38,044	41,008
営業利益	35,766	12,503
営業外収益		
受取利息	141	178
受取配当金	1,278	1,596
為替差益	—	872
不動産賃貸料	539	535
その他	643	541
営業外収益合計	2,602	3,724
営業外費用		
支払利息	1,053	1,167
為替差損	77	—
持分法による投資損失	3,345	1,515
その他	817	897
営業外費用合計	5,293	3,580
経常利益	33,075	12,648
特別利益		
固定資産売却益	39	61
投資有価証券売却益	29	—
事業譲渡益	178	—
受取保険金	16	25
その他	54	38
特別利益合計	318	125
特別損失		
固定資産売却損	35	49
固定資産除却損	900	1,300
過年度関税	1,085	—
その他	713	806
特別損失合計	2,734	2,156
税金等調整前四半期純利益	30,658	10,616
法人税、住民税及び事業税	7,676	8,071
法人税等調整額	651	△1,977
法人税等合計	8,327	6,093
四半期純利益	22,331	4,523
非支配株主に帰属する四半期純利益	532	96
親会社株主に帰属する四半期純利益	21,798	4,426

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	22,331	4,523
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,144	△1,160
繰延ヘッジ損益	△6,603	5,482
為替換算調整勘定	2,669	△1,825
退職給付に係る調整額	138	139
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,063	△959
その他の包括利益合計	△4,714	1,676
四半期包括利益	17,616	6,199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,133	6,047
非支配株主に係る四半期包括利益	483	151

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

1. 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、神岡マインサービス㈱は重要性の低下により、連結の範囲から除外しております。

2. 連結子会社の決算日の変更

従来、連結子会社のうち決算日が12月31日であった三井金属(珠海)環境技術有限公司、PT. Mitsui Kinzoku Catalysts Jakarta、Mitsui Kinzoku Catalysts Vietnam Co., Ltd.、Mitsui Kinzoku Catalysts(Thailand) Co.,Ltd.、Mitsui Kinzoku Catalysts America Inc.は同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について必要な調整を行っていましたが、第1四半期連結会計期間より、四半期連結決算日に仮決算を行う方法に変更しております。

この決算期変更に伴い、当第3四半期連結累計期間は平成30年1月1日から平成30年3月31日までの3か月分の損益について、利益剰余金の増加1,324百万円として調整し連結しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び国内連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務等

次の関係会社等について、金融機関からの借入等に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
パンパシフィック・カッパー(株)	90,902百万円	パンパシフィック・カッパー(株)	85,750百万円
SCM Minera Lumina Copper Chile	27,442	SCM Minera Lumina Copper Chile	25,272
Caserones Finance Netherlands B.V.	6,625	Caserones Finance Netherlands B.V.	—
三井住友金属鉱山伸銅(株)	1,850	三井住友金属鉱山伸銅(株)	1,350
従業員	398	従業員	347
その他 4社	269	その他 3社	230
計	127,487	計	112,951

2. 債権流動化に伴う偶発債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
買戻義務	499百万円	546百万円

3. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形割引高	251百万円	128百万円

※4. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	227百万円	307百万円
支払手形	165	163

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	19,506百万円	20,469百万円
のれんの償却額	4	—

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,997百万円	7円	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 平成29年10月1日付で、普通株式について10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。平成29年3月期の1株当たり配当額につきましては、当該株式併合前の実際の配当額を記載しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,997百万円	70円	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	機能 材料	金属	自動車 部品	関連	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	119,328	110,828	74,471	63,855	368,483	5,135	373,619
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,975	18,339	—	31,919	55,234	△55,234	—
計	124,304	129,167	74,471	95,774	423,718	△50,098	373,619
セグメント利益	23,614	2,006	3,951	5,304	34,876	△1,801	33,075

- (注) 1. 外部顧客への売上高の調整額は、主に在外子会社の売上高の本邦通貨への換算処理における差額（予算作成時において想定した為替相場と期中平均為替相場との差）であります。セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,098百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成30年4月1日 至平成30年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	機能 材料	金属	自動車 部品	関連	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	123,044	104,547	77,173	65,926	370,691	2,102	372,793
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,994	17,781	—	29,225	52,002	△52,002	—
計	128,038	122,328	77,173	95,152	422,693	△49,899	372,793
セグメント利益 又は損失(△)	14,356	△6,146	3,184	3,703	15,097	△2,449	12,648

- (注) 1. 外部顧客への売上高の調整額は、主に在外子会社の売上高の本邦通貨への換算処理における差額（予算作成時において想定した為替相場と期中平均為替相場との差）であります。セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,438百万円、固定資産の調整額△1,799百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	381円70銭	77円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	21,798	4,426
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	21,798	4,426
普通株式の期中平均株式数 (千株)	57,109	57,107

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 平成29年10月1日付で、当社普通株式について10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月13日

三井金属鉱業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 浦 洋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細 矢 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永 峯 輝 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井金属鉱業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井金属鉱業株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。